

青少年「平和と交流」支援事業（HIROSHIMA and PEACE） 報告会の実施について

参加者名 : LUCAS FERNANDES ALBERTO

派遣元加盟都市（国）：サントス（ブラジル）

行事名	ヒロシマから学ぶ平和の中で生きること
実施日	2018年2月27日
実施場所	IPREVSANTOS（サントス市社会保障事務所）
対象者 (属性・年齢等)	以下のメンバーを含むサントス市の公務員など12名 <ul style="list-style-type: none"> ・ IPREVSANTOS 所長 Rui Sérgio Gomes de Rosis Junior 氏 ・ サントス市国際業務室室長 Paula Franchi Quagliato Tringali 氏 ・ 平和首長会議の2018年青少年交流プログラムの参加候補者、法学部5年生（モンテ・セラート大学） Fernanda Guedes 氏 ・ 平和首長会議の2018年青少年交流プログラムの参加候補者、法学部5年生（カトーリカ・デ・サントス大学） Giulia Espino Marquezini 氏 ・ 市民社会の一員 Gilson Alberto 氏
参加者数	約15名
報告会の概要等	<p>個人的な経験を人に伝えるのは、常に難しい課題です。29才のブラジルの公務員であり（当時）社会福祉を学ぶ大学生として、ヒロシマで過ごした11日間の経験を再び話すのは、職場で経験した中では最も難しいものだと感じていました。しかし、2月27日に IPREVSANTOS の事務所で、同僚や平和首長会議の2018年青少年交流プログラムの参加候補者たちを集めて報告会をしました。</p> <p>この報告会の焦点は、HIROSHIMA and PEACE で学んだことをどのようにブラジルの現実（専門的な状況であれ、もっとマクロな視点で捉えた社会状況であれ）に置き換えることができるかについての話でした。互いに違いはあっても他者と共に働く、という私の信念をあらためて確認するのに、HIROSHIMA and PEACE で学んだことがいかに有益であったかということも話しました。平和首長会議は、160を超える国から7,000を超える都市が参加しています。この数の多さだけを見ても、私たちは仲間と、あるいは政府や市民社会のそれぞれの状況においても、共に働くことができるのだということを表しています。</p> <p>その後、私たちはサントス市の歴史ならびに世界平和への取組について話しました。Paula Quagliato 氏は、平和首長会議とサントス市役所との関係を詳しく説明してくれました。また、一見核と無関係なサントス市から、3年の間に4人の人たちを広島市に派遣し、平和を推進する活動に参加させた理由についても説明してくれました。</p> <p>最後に、私たちの生活が、いかに周りの人たちや環境に影響を与えるかについてもじっくり考える時を持ちました。公務員として日々の務めを果たしつつ、他の人に対して礼儀正しくふるまい、敬意をもって付き合うというような簡単なことを行う中で、平和への働きかけをすることができるのです。</p>
その他 (参考となる URL 等を記載のこと。)	<p>報告会の参加者は、私が広島に滞在していた時に配られた、ヒロシマの復興に関する漫画の抜粋を読むことができました。また、（添付の写真で）ご覧のとおり、私は広島カープの赤いジャージを身に着けていました。文化的な要素としてスポーツは重要であると私はかたく信じており、昨年から広島カープを応援するようになりました。頑張れ、カープ！</p>

